

エアブラシアーティストK2  
湯川和英さん（湯浅町）



部屋の壁にトトロ



ガレージにもトトロ

「あまりにもリアル！エアブラシアーティスト」

エアブラシアーティストに初めて出合ったのは、昨年の秋、田辺市龍神村で毎年開かれる「翔龍祭」で龍神ドームの玄関の2本の石柱に霧状の塗料を吹き付け、リアルな龍の絵を描く集団がいました。責任者は神戸から龍神村に移り住んだエアブラシアーティストのシバタユウスケさん(62)で、その中に今回登場する湯浅町湯浅でエアブラシアーティストK2の湯川和英さん(46)がいたことをとて知った。

エアブラシアーティストは緻密で多彩な表現の出来る大小のエアブラシのみを使い、圧縮空気で霧状にした塗料を吹き付け、濃淡を表現する着色器具は均一にムラのない塗料をグラデーションやぼかしにより影をつけたり、遠近感をつくることで写真のようなリアルな質感を作り出せること、今もイベントなどで手伝いながら修行中といわれるが、彼の作品を見てもうとうと芸術そのもので湯浅町の「かくどうクラブよかぜ」や有田川町の「おひさま園」など保

育所4カ所の看板に個人のガレージなどの作品は、いずれも温かさが伝わってくるアートばかり。

湯川さんは「塗料を変えれば素材を選ばずエアブラシで描くことが可能。作品は写真でも表現することができ、また、興味のある子どもたちに教えてあげたい」と話している。

問い合わせは湯川さん 090・4031・9504。

ドローンの空撮映像を楽しみませんか？



井口章さん

18日 有田川町徳田 THIRD CAFEで開催

小型無人機ドローンの活用する取り組みが2、3年前から本格化している。みかん産育状態や農産物の被害の多い日本鹿の生態調査、災害時の現地調査などに地方の自治体も導入を始めた。また個人では世界中の景勝地をドローンで撮影するビジネスも現われた。今後は人出不足を補うためドローンで小荷物の配達、効率のよい農業散布など実用化に向けて実験が進められている。有田地方では有田市宮原町の早和果樹園などは早くから導入してその成果を上げて

一般では有田川系川で風想工房・井口章さん(62)が昨年の8月に徳田で「ドローンのタペ」を開き、15人が参加した。新春も計画しており、興味のある人の参加を募っている。

井口さんがドローン



空撮映像を楽しむ(昨年のドローンのタペ)

に興味をもったのは1年前、大学の同窓会で友人からドローンはおもしろいぞと勧められ、教員を退職した時でもあり即購入、現在2機を所有している。

ドローンの性能は高くなり、空からの撮影した映像はブレもなく、すばらしいものだった。フェイスブックに入れる「有田川町にこんなよい所があったの」と関心を寄せてくれる人が多いため昨年8月31日にドローンのタペを実施したところ盛り上がり、つづいてドローンタペⅡを企画しました。

開催日は1月18日(木)午後7時~8時40分、場所は有田川町徳田のTHIRD CAFE。参加費は1000円(ドリンクク)

「ドローンによる空撮映像紹介と空撮の話」を主にお茶を飲

みながら楽しんでもらう場にした。ドローンに活用したい方など、気軽に参加していただき、ドローンを購入してほしいと話している。

申し込みはEメール [leafwind201505@gmail.com](mailto:leafwind201505@gmail.com) FAX 0737・22・6360。

今年も活気あふれる「とれピチ」へ行こう  
望月市長、玉木県議は常連



望月市長(左)玉木県議



詰め放題は楽しいよ

有田市箕島漁港の2年前の5月から毎月第30日、最終の「と土曜に開催、海が荒れればピチ朝市(有田市)と中止になることが、産地協議会主催は昨、昨年の10・11月お刺身、じゃこエビのた。9時になると有田市観光協会の女性部が市の特産品を、農家の関係者は野菜や花に米など、に正月用のしめ飾り、干支の置き物、干支なども出品し、よく売れ、9時30分の鮮魚の整理券配布の時間、約150人がおりました。

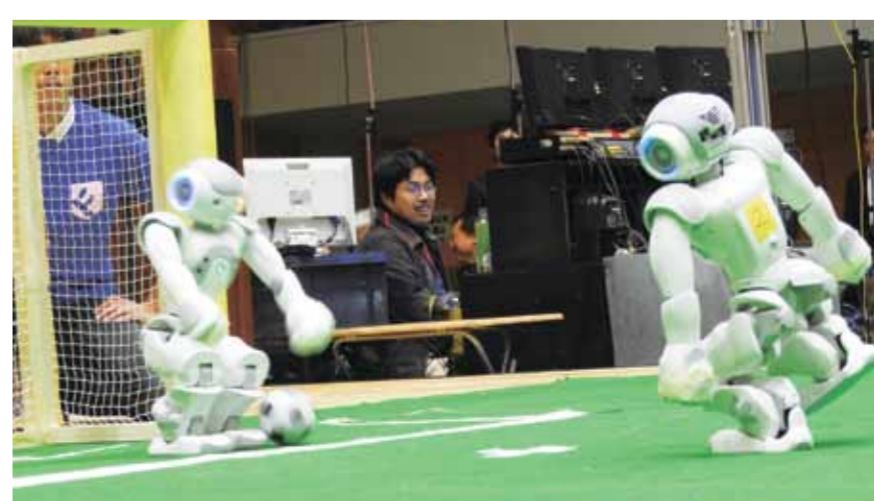
女子学生も来場者にア並んだ。10時になると30人をひと区切りに順番に買い物をした。エビやイカは正月用にた、くさん買って帰る人も大勢いた。

本紙記者も買い物兼ね、ほぼ毎回取材に訪れるが、望月市長と玉木県議の2人が、いつも出会うところから、今回も正月用のしめ飾り、干支の置き物、干支なども出品し、よく売れ、9時30分の鮮魚の整理券配布の時間、約150人がおりました。

最先端のAIロボットに歓声  
きのくにロボットフェスに二階幹事長、世耕大臣



二階幹事長(左)世耕経済産業大臣



サッカーのPK戦を実演する「NAO」

第11回きのくにロボットフェスでは、実行委「したい」とあいさつ。2020年にロボットの国際大会「ワールドロボットサミット」が日井大学のAI(人工知能)搭載のAI(人工知能)対戦、1対1のPK戦の実演を、見学、ボールがゴールに入る顔を合わせ拍手を送っていた。

二階幹事長と世耕大臣は「私も昨年、立体育館で開かれ、全国大会になり、理加、将来有望なロボット技術者になれる。大会もある。日本のロボットの実演を、世界のロボットに挑戦してください」と話している。

「ロボットの未来を担う」と話している。世耕大臣は「ロボットの未来を担う」と話している。世耕大臣は「ロボットの未来を担う」と話している。

2017 師走に2シヨット